

財政状況の公表（平成30年度上半期）概要

各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

平成30年度予算のあらまし

補正額 9億5,080万3千円

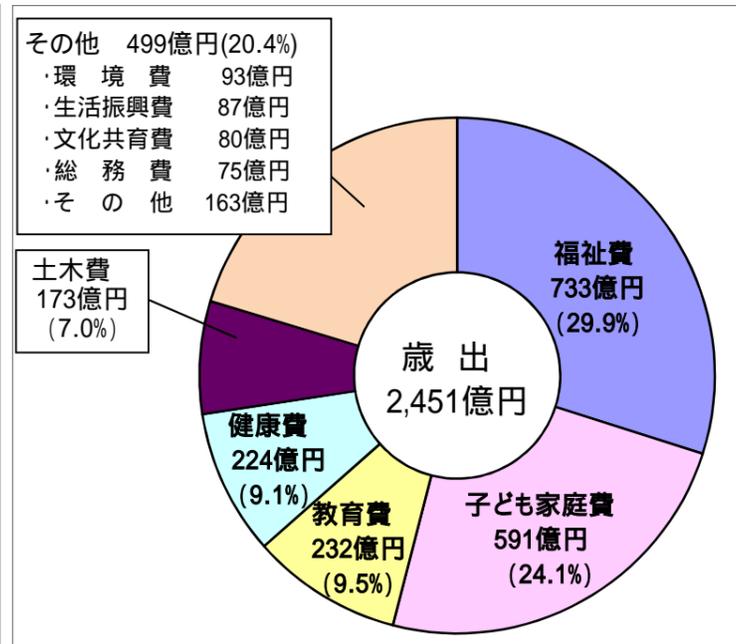
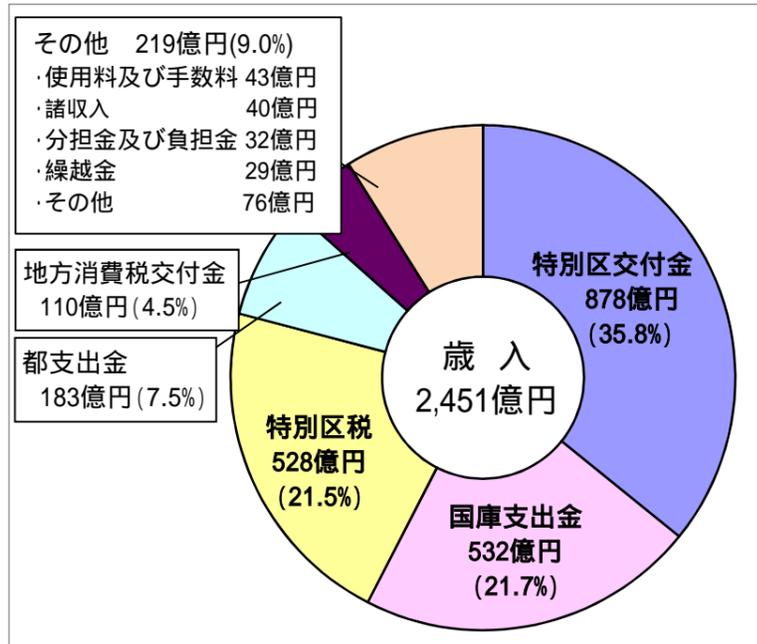
<歳入>

繰越金	6億3,214万6千円
国庫支出金	1億4,645万2千円
繰入金	1億4,170万円
諸収入	1,860万3千円
寄付金	742万2千円
都支出金	448万円

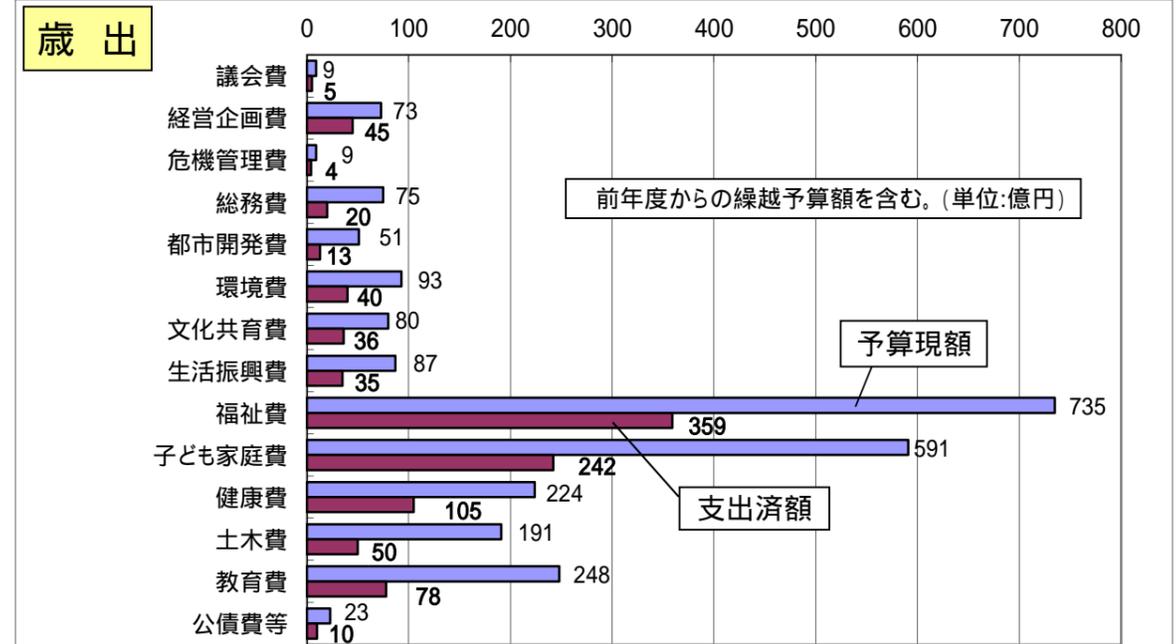
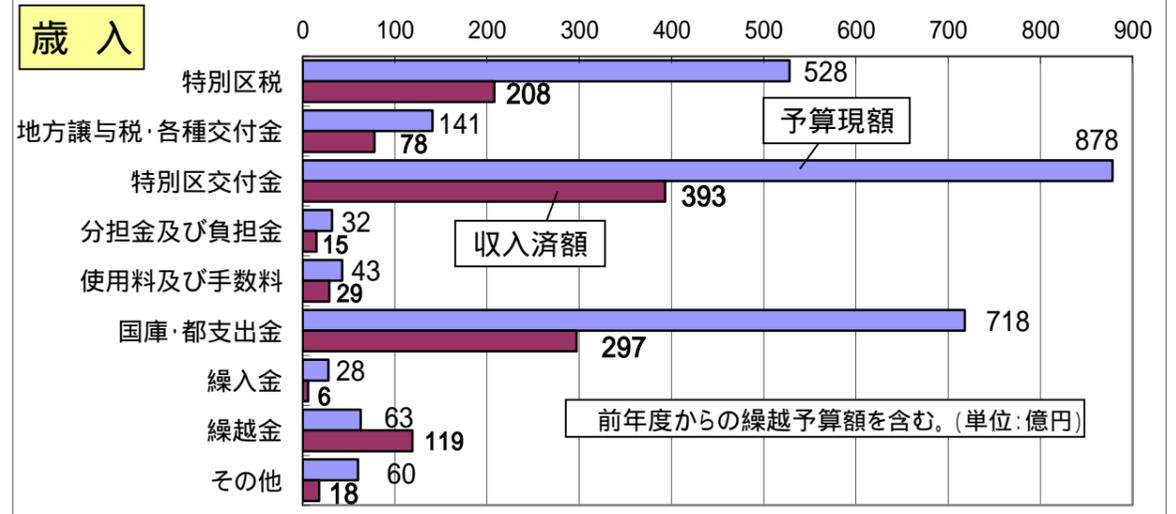
<歳出>

再開発事業推進費	2億8,340万円
（JR小岩駅北口地区再開発事業の準備組合補助金等）	
小松川第一中学校施設改築費（旧小松川第二中学校跡地）	2億1,623万円
（基本設計・実施設計及び事前調査等経費）	
小岩第二中学校施設改築費	1億8,053万9千円
（基本設計・実施設計及び事前調査等経費）	
一般職の給与費（児童相談所開設準備担当課）	1億3,075万3千円
（派遣職員等の増員に伴う給料等の増）	

補正後の一般会計予算の構成

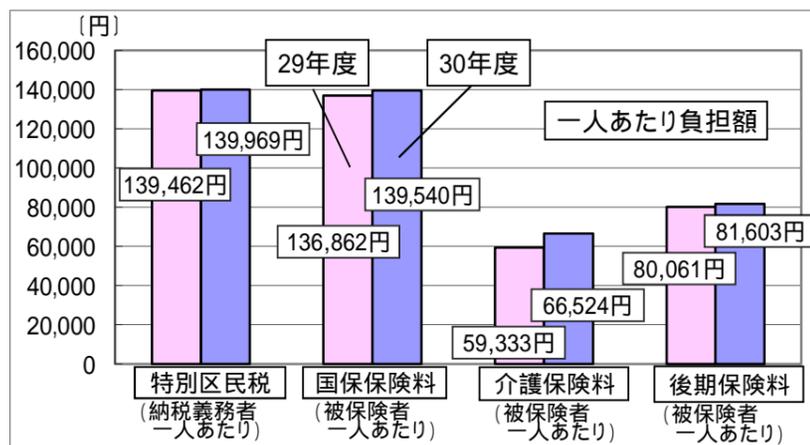


平成30年度予算の執行状況 一般会計(平成30年9月30日現在)

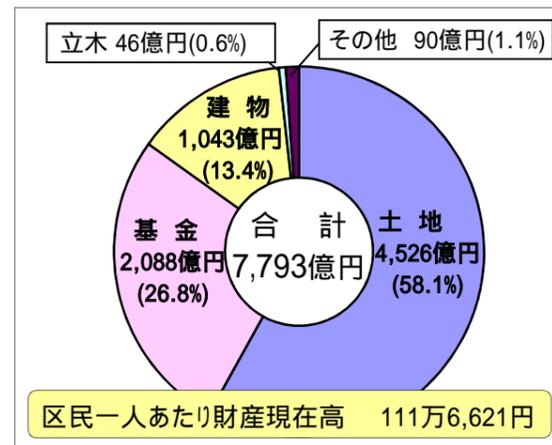


江戸川区の人口(住民基本台帳人口 外国人を含む) 697,898人(平成30年10月1日現在)

区民の負担概況 (平成30年9月30日現在)



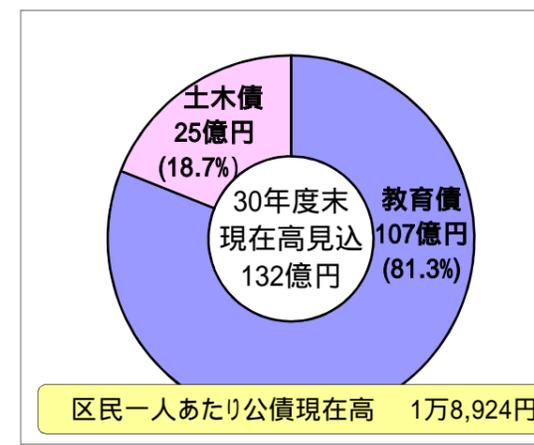
財産の現在高 (平成30年9月30日現在)



基金とは...

積立基金と運用基金の2種類があります。左の基金は、この2つの合計です。
積立基金は、家計でいうと貯金です。災害発生時や老朽化した施設の改築等への備えで、9月末現在高は1,883億円です。
運用基金は、一定額の基金を土地取得等のために運用するもので、205億円あります。

公債の現在高 (平成30年9月30日現在見込)



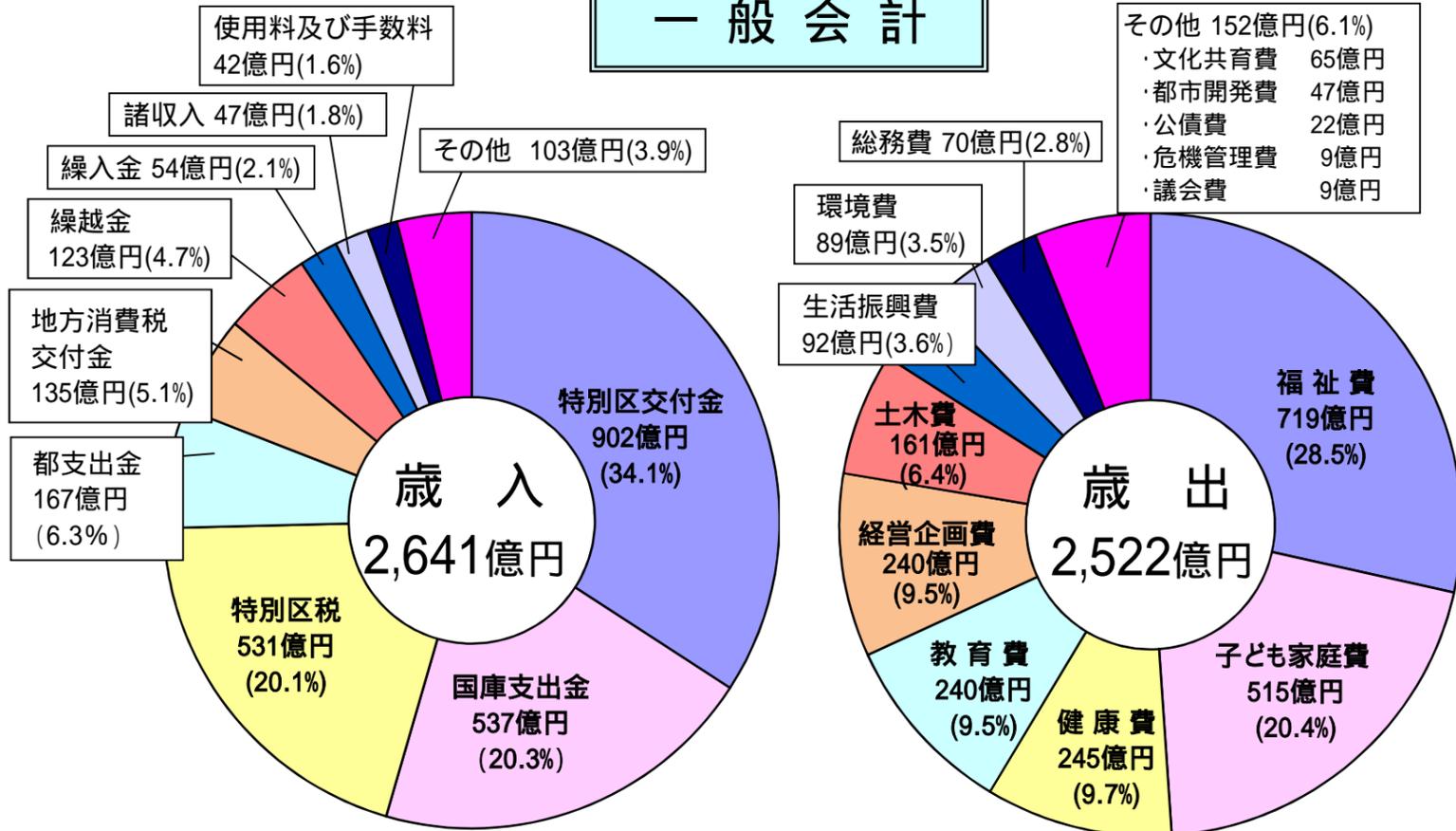
公債(区債)とは...

家計でいうと住宅ローンなどの借金です。
道路整備や学校の改築など、いくつかの世代にわたって利用することのできる施設について、将来の区民の方々にもその費用の一部を負担していただくため、公債(区債)を借入れ、負担の公平を図っています。

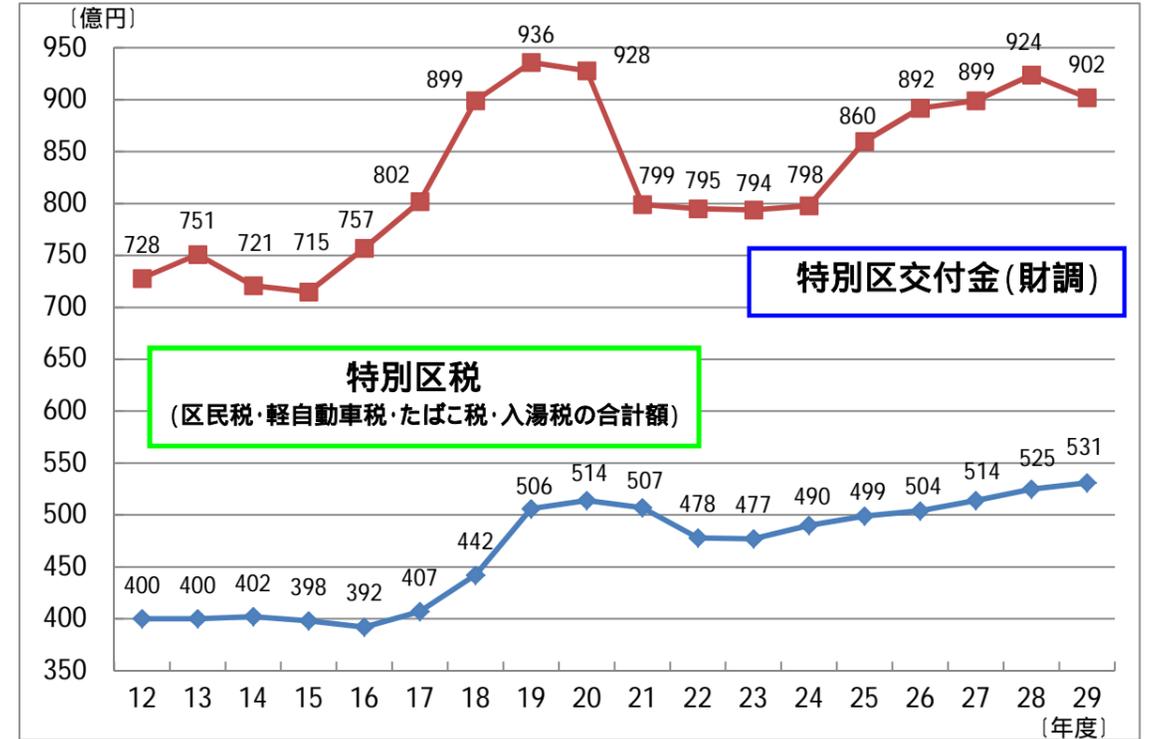
平成29年度 決算の概要

各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

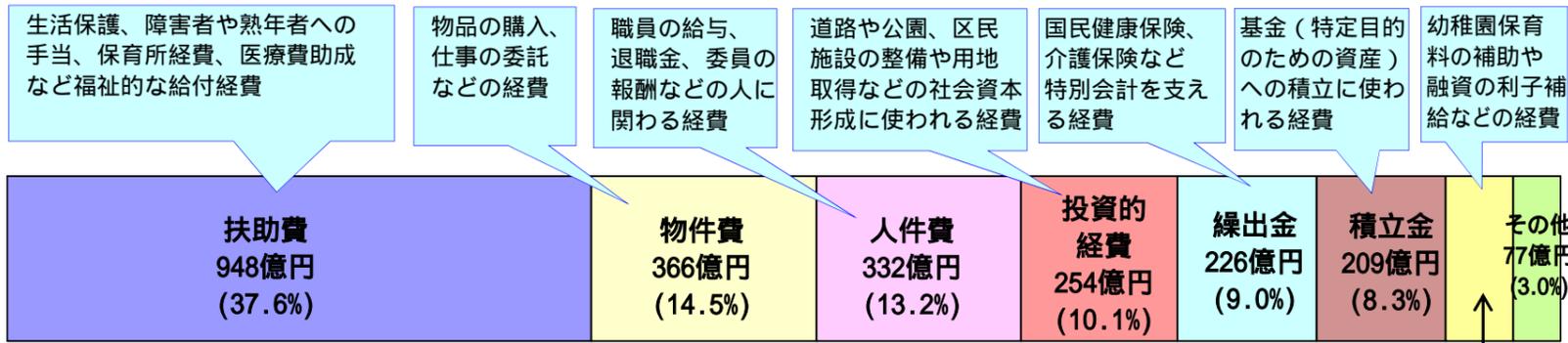
一般会計



特別区交付金と特別区税の推移



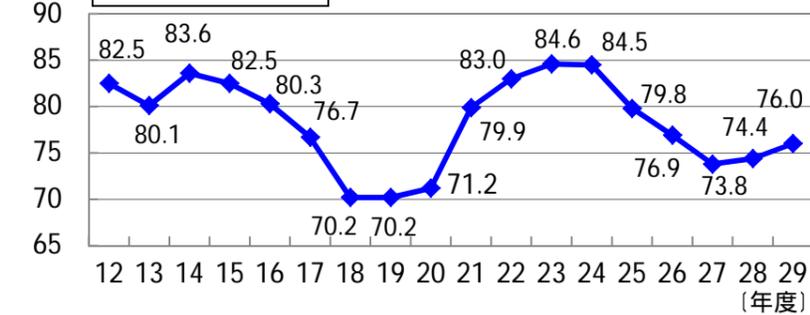
歳出の性質別内訳



特別区交付金と特別区税

平成23年度以降、日本経済の景気回復により、増加傾向にありましたが、法人税の一部国税化などにより特別区交付金は減少しました。

経常収支比率



経常収支比率

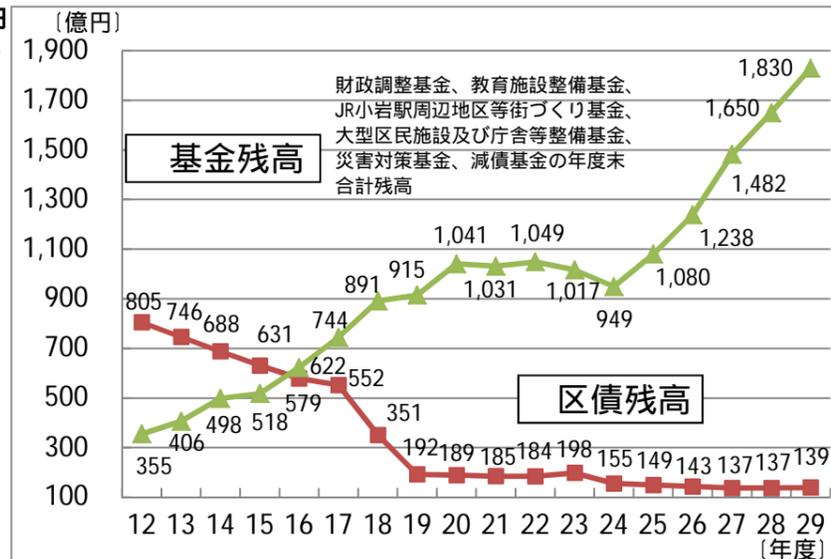
財政構造の弾力性を計る指標で、適正水準は70%~80%です。平成29年度は、前年度から1.6ポイントの上昇で5年連続適正水準となりました。

平成29年度決算に基づく健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
江戸川区	-	-	6.0%	-
早期健全化基準	11.25%	16.25%	25.0%	350.0%

表中の「-」はマイナス値を表し、平成29年度決算が黒字であったこと、将来負担すべき額よりも基金(貯金)の方が多く、将来負担比率の該当がなかったことを示しています。なお、実質公債費比率がマイナスの場合は「-」と表示しています。早期健全化基準とは、この数値を超えると財政が危険な状態であることを示す、国が定めた指標で江戸川区の場合の指標を記載しています。

基金残高



区債と基金の残高

区債残高は、平成24年度以降減少が続きましたが、平成29年度末では微増し、139億円になっています。主要6基金残高は、「大型区民施設及び庁舎等整備基金」などへの積立により、前年度より180億円の増加となりました。